

保育園における感染症の登園基準表

～西高泊保育園～



保育園は長時間集団生活を行う場です。感染症の集団発症や流行を防ぐことはもちろん、一人ひとりのこどもが快適に生活できることが大切です。感染力のある病気にかかりましたら、集団生活に適応できる状態に回復をしてから登園するよう、ご配慮をお願いいたします。

★ 医師が意見書を記入することが考えられる感染症

| 感染症名 | 潜伏期間 | 感染しやすい期間 | 主な症状 | 登園のめやす |
|--------------------------|--------|----------------------------|-----------------------------|---|
| インフルエンザ | 1～4日 | 発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで | 悪寒、頭痛、高熱、咳、倦怠感、鼻汁、筋肉痛、咽頭痛など | 発症後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで（乳幼児3日） |
| 新型コロナウイルス感染症 | — | 発症後5日間 | 悪寒、頭痛、高熱、咳、倦怠感、鼻汁、筋肉痛、咽頭痛など | 発症から5日を経過し、かつ症状軽快語1日を経過すること |
| 麻疹（はしか） | 10～12日 | 発症1日前から発疹出現後の4日後まで | 上気道のカタル、発熱、粘膜疹 | 解熱後3日経過してから |
| 風しん（三日はしか） | 14～21日 | 発疹出現の前7日～後7日 | 発疹、軽熱、リンパ腺腫大 | 発疹が消失してから |
| 水筒（みずぼうそう） | 11～20日 | 発疹出現1～2前からかさぶたまで | 軽熱、発疹、水泡、顆粒状かさぶた | すべての発疹がかさぶた化してから |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 14～24日 | 発症3日目から耳下腺腫4日 | 発熱、耳下腺、舌下腺、顎下腺の腫脹及び圧痛 | 耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること |
| 結核 | 2年以内 | 喀痰の塗抹検査が陽性の間 | 肺結核では咳、痰で初発し概ね2週間で蔓延する | 医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで |
| 咽頭結膜炎（アデノウイルス） | 5～6日 | 発熱、充血などの症状が出現 | 発熱、全身症状、咽頭炎と結膜炎の合併症 | 感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失し2日経過してから |
| 結膜炎（はやりめ）（アデノウイルス） | 1週間以上 | 充血目やに等症状が出現した数日間 | 軽熱、頭痛、全身倦怠、結膜炎、目やに | 結膜炎の症状が消失していること |
| 百日咳 | 6～15日 | 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで | 発作性咳の長期反復、持続 | 特有の咳が消失するまで。又は5日抗菌薬物質製剤による5日間の治療が終了していること |
| 腸管出血性大腸菌症 O157.O26.O111等 | 3～4日 | 便中に菌を排泄している間 | 激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度 | 症状が治まり、抗菌薬による治療が終了し48時間をあけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されること |
| 急性出血性結膜炎 | 1～2日 | 呼吸器から1～2週間 | 流涙、結膜充血、 | 医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | — | — | — | 医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで |

★ 医師の診断を受け保護者が登園届を記入することが考えられる感染症

| 感染症名 | 潜伏期間 | 感染しやすい期間 | 主な症状 | 登園のめやす |
|-------------------|--------|--------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 溶連菌感染症 | 2～4日 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間 | 発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、発疹 | 抗菌薬内服後24～48時間経過していること |
| マイコプラズマ肺炎 | 10～24日 | 適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間 | 咳、発熱、呼吸困難（重症） | 発熱や咳が治まっていること |
| 手足口病 | 2～7日 | 手足口腔内に水泡、潰瘍が発症した数日間 | 感冒様症状、手足口に赤斑→水泡 | 発熱や口腔内の水泡、潰瘍の影響がなく普段の食事がとれること |
| 伝染性紅斑（りんご病） | 17～18日 | 発疹の前の1週間 | 顔面赤斑とくに頬部の赤斑 | 全身状態が良いこと |
| ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス等） | — | 症状がある間と、症状消失後1週間（量が減少していくが排出があるので注意） | — | 嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること |
| ヘルパンギーナ | 2～7日 | 急性期の数日間（便のなかに1か月程度ウイルスを排出しているため注意） | 高熱、咽頭痛、咽頭に水泡 | 発熱や口腔内の水泡潰瘍の影響がなく普段の食事がとれること |
| RSウイルス感染症 | — | 呼吸器症状のある間 | — | 呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと |
| 帯状疱疹 | — | 水泡を形成している間 | — | すべての発疹がかさぶた化してから |
| 突発性発疹 | 約10日 | — | — | 解熱し期限がよく全身状態が良いこと |

